

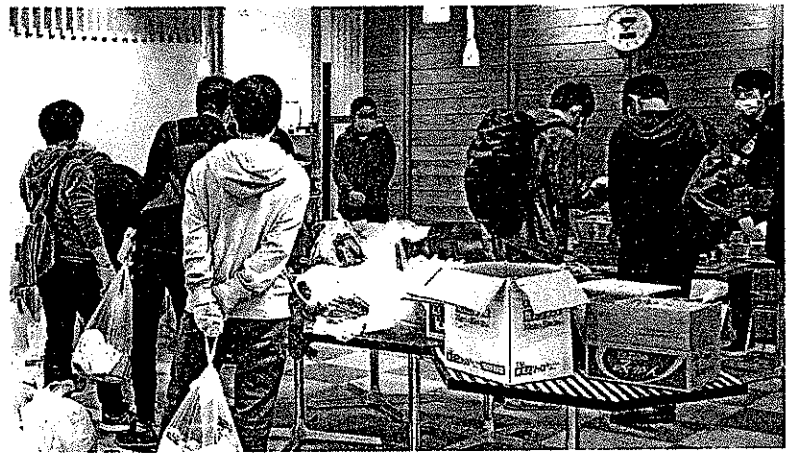
12/1
赤旗

コロナ禍学生支援と窮状

親失業「退学迷う」

鳥取大食料配布で訴え

コロナ禍で困窮する学生に無料で食料品などを配る第3回「フードプロジェクト・学生食料支援」が28日、鳥取大学構内で開かれ、162人の学生が利用しました。主催は同実行委員会。



食料を受け取る学生たち—28日、鳥取市

米3斗、袋ラーメン、レトルトカレー、缶詰、マスク7枚を袋詰めセットにして配布されました。用意した袋がなくなり、急ぎよ40個を追加しました。大根、シロネギ、イモ、タマネギは取り放題。

「親がコロナで失業して、退学するかどうか迷っている。水だけで過ごす日もある」(3年生男子)、「コロナで親の収入が減って仕送りが少なくなり、生活が厳しい」(3年生男子)、「バイトが減って収入が減り1日200〜300円で過ごしている」(2年生男子)、「就職先が決まらず計画留年も考えている」(4年生男子)、「飲食店のバイトを切られ、別のバイトをしている。1日の生活費は200〜300円」(3年生男子)、「1日300円の生活。せいぜいたくはできない」(4年生女子)、「就職が決まったが将来が不安。食事は基本インスタントなので米は助かる」(4年生女子)など、深刻な実態が次々と報告されました。

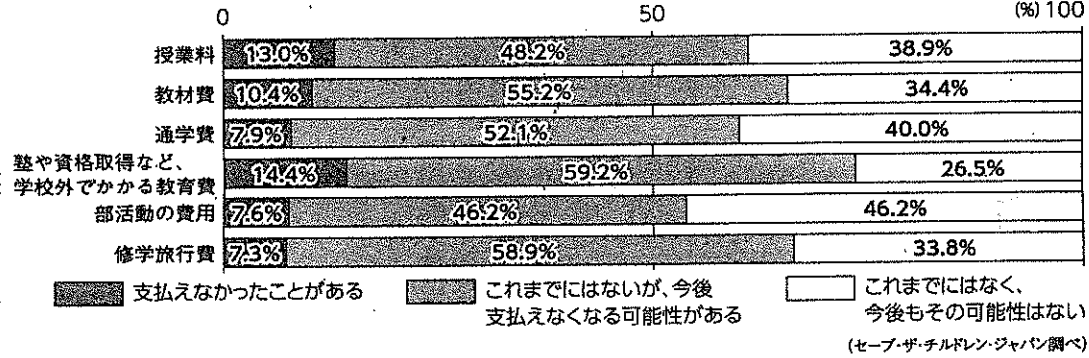
都内のひとり親家庭「高校就学困難」3割超

子ども支援の国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は30日、東京都内のひとり親家庭を対象とした新型コロナウイルス感染症による経済状況についてのアンケート結果を公表しました。

調査は、同団体が8月〜11月に行った「都内ひとり親家庭高校生給付金」事業の申込世帯へ行ったもの。高校生生活にかかる費用が「支払えなかった」と

「支払えなかった」「支払えなくなる可能性」合わせ半数に

新型コロナウイルスの影響により、高校生活にかかる費用を支払えなかったと答えた世帯



答えた世帯は1割に。「今後支払えなくなる可能性がある」を合わせると半数に上ります。(グラフ参照)

自由回答欄には、低所得世帯の高校生に対する返済不要の給付金「高校生等奨学給付金」の増額や、公的支援の薄い高校生への支援拡充を求める声が多く寄せられました。

同団体は政府や自治体などに対し、実態の把握や現金給付などの支援策に加え、「高校生等奨学給付金」の早急な追加予算措置や運用改善などを求めています。